



順天堂大学消化器外科 NEWS

Department of Gastroenterological Surgery, Juntendo University



1月27日に第98回大腸癌研究会学術集会が開催され、当番世話人は八尾隆史教授(人体病理病態学)でした。近年の大腸癌罹患率は、欧米の報告では結腸癌、直腸癌とも39歳以下で増加傾向を示しており、主題の一つに「若年性大腸癌に対する診断と治療」が取り上げられました。全国から83題の演題(口演:20題、示説:63題)が集まり、熱い議論が交わされました。39歳以下の若年者大腸癌の頻度は約1~2%であり、症例の収集が難しいため、単施設では20例前後が多く、100例以上の報告は6演題のみでした。

順天堂大学では附属病院5施設のデータを取り纏めて、112例の若年者大腸癌を集積して、石山 隼先生が口演発表を行いました。若年性大腸癌は、非若年性大腸癌に比較してリンパ節転移・脈管侵襲が高度でしたが、全生存期間で有意差は認められませんでした。また、若年性大腸癌では特徴的な mucin phenotype を示す可能性が示唆されました。



◆ お問い合わせは順天堂大学消化器外科(大腸肛門外科)へ

«連絡先» 医局長: 河合 雅也 mskawai*juntendo.ac.jp

*の文字を@に置き換えてメールを送信ください。